

# 鳥取赤十字病院施設整備計画の概要

1. 再整備の必要性
2. 整備・理念・基本方針
3. 基本方針の概要
4. 建物配置
5. 整備スケジュール
6. 概算事業費



## 1. 再整備の必要性

鳥取赤十字病院は、大正4年4月に開設して以来、戦時中の一時期に陸・海軍病院としての改称はありましたが、鳥取県東部保健医療圏における急性期医療の中核病院として医療サービスを提供し続け、97年を迎えました。

この間、病棟等増改築を繰り返してきましたが、建物の狭隘・老朽化による療養環境の悪化が進むとともに、新耐震基準への適合のため、早期の改善が急がれていました。

このたび、病院機能の効率化と刷新を図るため、現在地において増改築等の施設再整備を行うこととしました。

これにより、鳥取県東部医療圏の中核病院として、救急医療、急性期医療、高度医療のみならず、地域住民の疾病の予防・早期発見の健診活動を担う使命を果たし、患者さんとご家族が期待する魅力的で機能的な病院の整備を目指します。また、良質で安全・安心な患者中心の医療を提供するとともに、地域の医療機関と連携し、機能分担を強化して地域住民の生命と健康を守ります。

そして、このような医療を提供するために、病院職員が気持ち良く安心して働ける環境の整備を目指します。

## 2. 整備 理念・基本方針

### 【施設整備 理念】

1. 患者への安心とやさしさの提供
2. 地域に愛される病院づくり
3. 職員が働きやすい環境の整備

### 【施設整備 基本方針】

1. 災害に強い病院
2. 救急医療の充実
3. 診療機能の充実
4. 地域医療連携体制の強化
5. 効率的な建物構成及び療養環境の整備
6. 質の高い医療従事者の確保・育成と労働環境の整備
7. 効率的な病院経営

### 3. 基本方針の概要

#### (1) 災害医療体制の整備

鳥取県東部地域における地域災害医療センターに指定され、災害時の医療救援活動の拠点としての役割を担っています。重傷病者の受入など、災害時に対応できる病院を目指します。

#### (2) 救急医療の充実

迅速な救急医療の提供ために、効率性を高めた救急診療室等の拡充整備を目指します。

#### (3) 外来診療体制の強化

鳥取県地域医療再生事業として、次の高度な専門外来等を設置します。

- ① 総合診療科の新設
- ② 消化器病センターの新設
- ③ 関節リウマチセンターの新設
- ④ 頭頸部腫瘍センターの新設
- ⑤ 健診センターの充実

#### (4) 地域医療連携機能の充実

公立病院が鳥取市内に複数あることで医療資源の分散が懸念されます。医療連携体制を強固にすることで、地域全体の医療環境の向上を図られることより、連携強化に必要な施設の整備を目指します。

#### (5) 効率的な建物の配置、動線の整備

現B館以外の棟は取り壊し、病棟の一棟化をはじめとした効率の良い動線と機能の集約化を目指します。

患者さんのプライバシーやセキュリティを確保し、アメニティの充実、バリアフリーへの配慮など、患者さんに安全・安心とやさしさを提供できる質の高い療養環境の整備を目指します。

#### (6) 人材確保と育成体制の整備

医師にとって魅力ある施設づくりを行うとともに、臨床研修指定病院としての機能の充実を目指します。医師以外の看護師やコメディカル職員に対しても、研修・教育体制の充実を図り、病院全体の医療水準の向上を目指して整備します。良質で安全な高度医療を提供するためには、それを支える病院職員が安心して働くことができる快適で機能的な労働環境の整備を目指します。

#### (7) 病床数

病床種別	整備前	整備後
急性期病床	419床	323床
HCU 病床	5床	11床
亜急性期病床	8床	12床
緩和ケア病床		4床
計	438床	350床

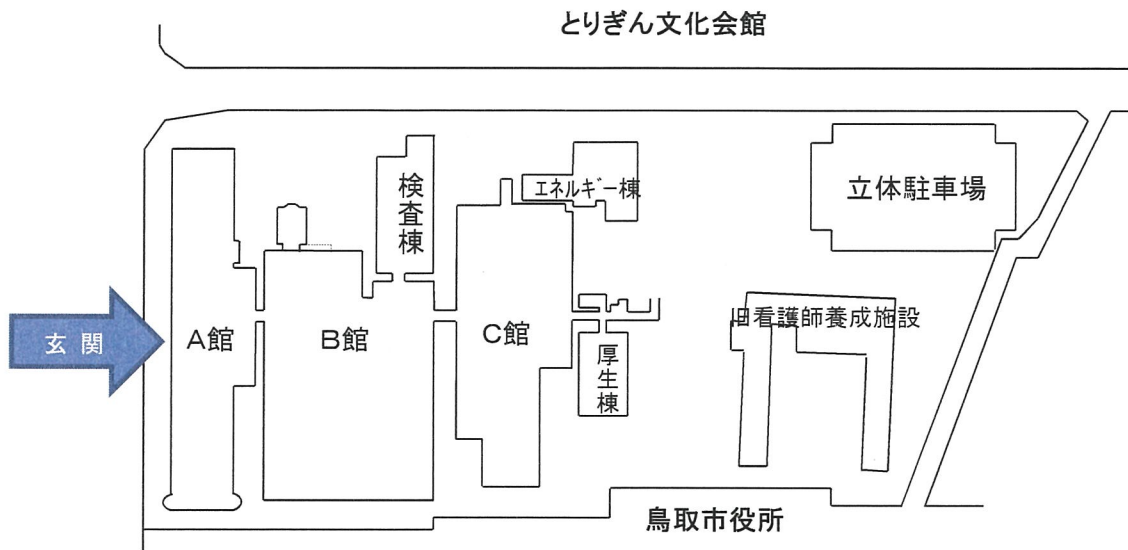
#### (8) 標榜診療科 (今回計画での変更なし)

内科、循環器科、神経内科、小児科、外科、整形外科、リウマチ科、脳神経外科、皮膚科、心臓血管外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、放射線科、歯科口腔外科

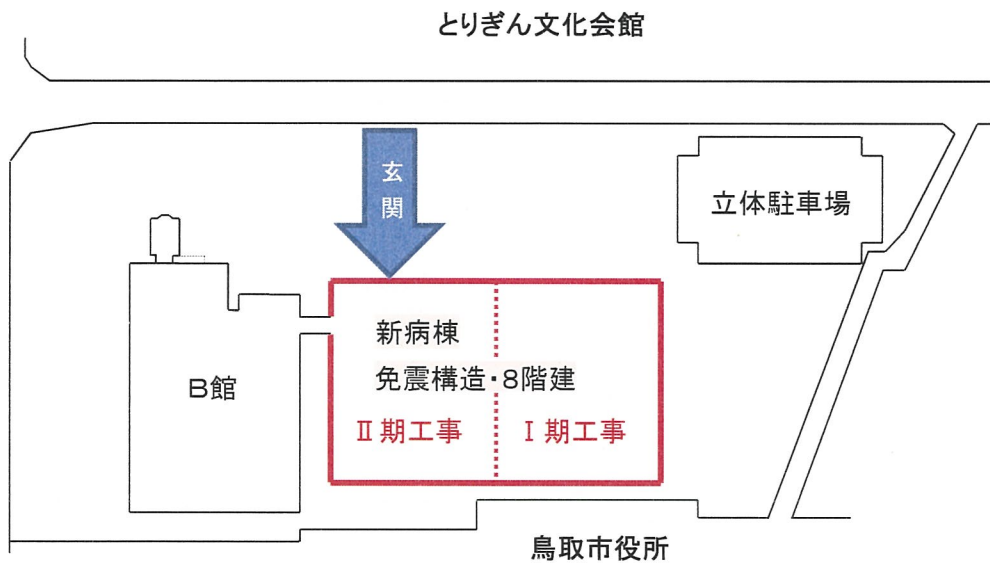
(計 17 診療科)

## 4. 建物配置

### (1) 現況



### (2) 再整備後



### (3) 再整備前後 配置比較表

現在配置建物（竣工年）	事業内容	再整備後配置
A館（S31）	解体予定	
B館（H2）	改修	B館 耐震構造（外来、管理各室 等）
C館（S42）	解体予定	
検査棟（S54）	解体予定	
エネルギー棟（H2）	解体予定	
厚生棟（S42）	解体予定	
看護師養成施設（S57）	解体予定	
立体駐車場（H5）		立体駐車場
	今回新築	新棟 免震構造・8階建（病棟、手術室、玄関、救急外来 等）

## 5. 整備スケジュール

	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
基本設計	■							
実施設計		■						
I期工事			■					
II期工事						■		
B館改修								■
解体工事			■			■		■
外構整備工事							■	■

工期：平成26年1月～平成31年3月末(予定)

基本設計 平成23年10月～平成24年9月

実施設計 平成24年9月～平成25年6月

先行解体工事 平成25年7月～平成25年12月 (看護師寮、看護学校、厚生棟)

I期工事 平成26年1月～平成27年9月 (新棟南側)

解体工事 平成27年12月～平成28年6月 (C館、エネルギー棟)

II期工事 平成28年7月～平成30年2月 (新棟北側)

B館改修 平成30年5月～平成30年11月

解体工事 平成30年5月～平成31年2月 (A館、検査棟)

外構整備工事 平成29年11月～平成31年3月

## 6. 概算事業費

項目	金額 (単位:千円)	備考
建築・解体・改修工事費	7,392,000	設計監理費含む
医療機器整備費	600,000	
初度調弁費	169,000	
合計	8,161,000	消費税込み

※上記事業費は、今後の検討により変更となる場合があります。

### 【基本理念】

私たちは、赤十字の人道・博愛の心をもって医療を行います。

### 【基本方針】

患者様の権利を尊重し、十分な説明と合意に基づいた医療を行います。  
地域の皆様に愛され、信頼される病院を目指し、地域医療を支援します。  
常に教育・研修を推進し、自己研鑽に励み、医療の質の向上に努めます。

鳥取赤十字病院 建設推進室  
電話 0857-24-8111(代表)

## 計画建物(景観計画)について

資料 1

「(仮称)鳥取赤十字病院新病棟等増改築工事」における、新病棟(以下、計画建物)における、外観デザイン(屋根形状・外壁の色・緑化)に関する考え方を中心に添付資料をもとにご説明させていただきます。  
※尚、添付の資料は基本設計時点の内容であり、実施設計にて一部変更となる可能性があります。

### 添付資料

- ・計画建物概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(資料1)
- ・配置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(資料2)
- ・立面図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・(資料3)
- ・鳥瞰図(基本設計時点) ※提出時期 10/中旬頃提出予定(現在作成中)

### <計画概要>

#### ○整備内容

「(仮称)鳥取赤十字病院新病棟等増改築工事」は、地域中核病院・災害拠点病院として高度先進医療提供の場を整備(新棟増築・B館改修)するとともに、敷地内の未耐震建物・老朽化した建物の解体を行う予定となっております。(工期:約 69 カ月)

#### ○計画建物概要

階数:地上9階(地下無し)

構造:鉄筋コンクリート造・免震工法

面積:建築面積・約 3,000 m<sup>2</sup> 延床面積・約 20,100 m<sup>2</sup>

低層部(1～3階):病院主玄関・医事・多目的ホール・救急・外来・手術などの機能移転

病棟部(4～7階):既存建物に分散されている病棟の一元化

エネルギーセンター(8階～9階):災害対策(地震・水害等)の観点より上階設置

<屋根形状・選定理由>

下記の観点より、本計画は『陸屋根』(※雪・氷柱を地上面に落さない)として、設計を行っております。

【安全・安心面】の観点

①計画地は、全国的にみても豪雪地帯(最深積雪量 100cm)であり、雪・氷柱対策が必要。

→勾配屋根の場合、落雪の危険性大・高層建築物であることから、陸屋根が適切であると判断します。

②計画敷地は余裕が無く、建物外周(低層部・病棟部)の1/2以上が、7階まで同一面となる。

→①の危険性の回避からも、陸屋根が適切であると判断します。

③地上面における、落雪スペースの確保が困難(高層建築物の為、落雪の堆積スペースがかなり必要)

→①・②より、陸屋根が適切であると判断します。

【建物特性】の観点

○地域中核病院・災害拠点病院の使命より、災害対策(地震・水害)を万全にする必要がある。  
免震建物である新棟(最上階)に、エネルギーセンターを設置(災害時継続医療の観点より)  
設備機器更新時、機器を最上階屋根に吊上げ、搬入するスペースが必要であり、  
エネルギーセンター周辺屋根(7階屋上部分)を利用する計画としている。

→病院設備機器は、多用途設備と比べ更新頻度が非常に高いことからも、屋根部は陸屋根とすることが適切であると判断します。

○敷地地盤状況が比較的良くない地域である。

→計画建物の荷重条件を必要分にて設定し出来るだけ軽くする計画とする。

<外壁の色について>

久松山山系景観保全地域基本方針(鳥取市)を遵守し、  
計画建物の色彩計画を周辺・敷地内の緑に調和する落ち着いた色彩となるように計画します。

○計画ポイントと考えられる点

病院へのアプローチは、鳥取駅より国道 53 号線、その他各市道の利用が中心となります。  
特に鳥取駅より国道 53 号線からのアプローチは、常に久松山が見渡せる大変良い環境と考えます。  
新棟の色彩デザインにおいては、緑化計画と共に周辺環境と調和するデザインを心がけます。

<緑化について>

計画地は、重点緑化地区(中心市街地地区)に指定されており、国道53号線沿いは街路樹整備推進・公共公益施設の緑化推進イメージのもと景観計画がなされておりますので、本計画においても、緑化面積の確保・緑化の推進を心がけ計画を行います。

※現在、敷地内既存樹木の一部の移設、新規の緑化計画を敷地内駐車場計画と共にっております。

全体計画（配置計画）

資料2

■土地利用計画

- 新棟をB館に極力近接して配置
  - ・新棟とB館（特に外来）との一体利用に配慮
  - ・ゴミ庫（別棟）や設備スペースはメインアプローチと逆側に設置
- 将来性を見据えた配置
  - ・新B館増築スペースを北東側に確保
  - ・新棟南側にリニアック増築スペースを確保
  - ・車路、車寄せロータリー等、将来増築時にも極力代替が不要な計画とする
- 敷地内環境への配慮
  - ・敷地境界沿は状況に応じて、フェンス等を設置
  - ・レストラン、多目的ホールに面して庭園を整備
  - ・条例上必要な緑地を設け、既存樹木の一部移植も検討する

○駐車場は437台程度確保（公開空地協議による）

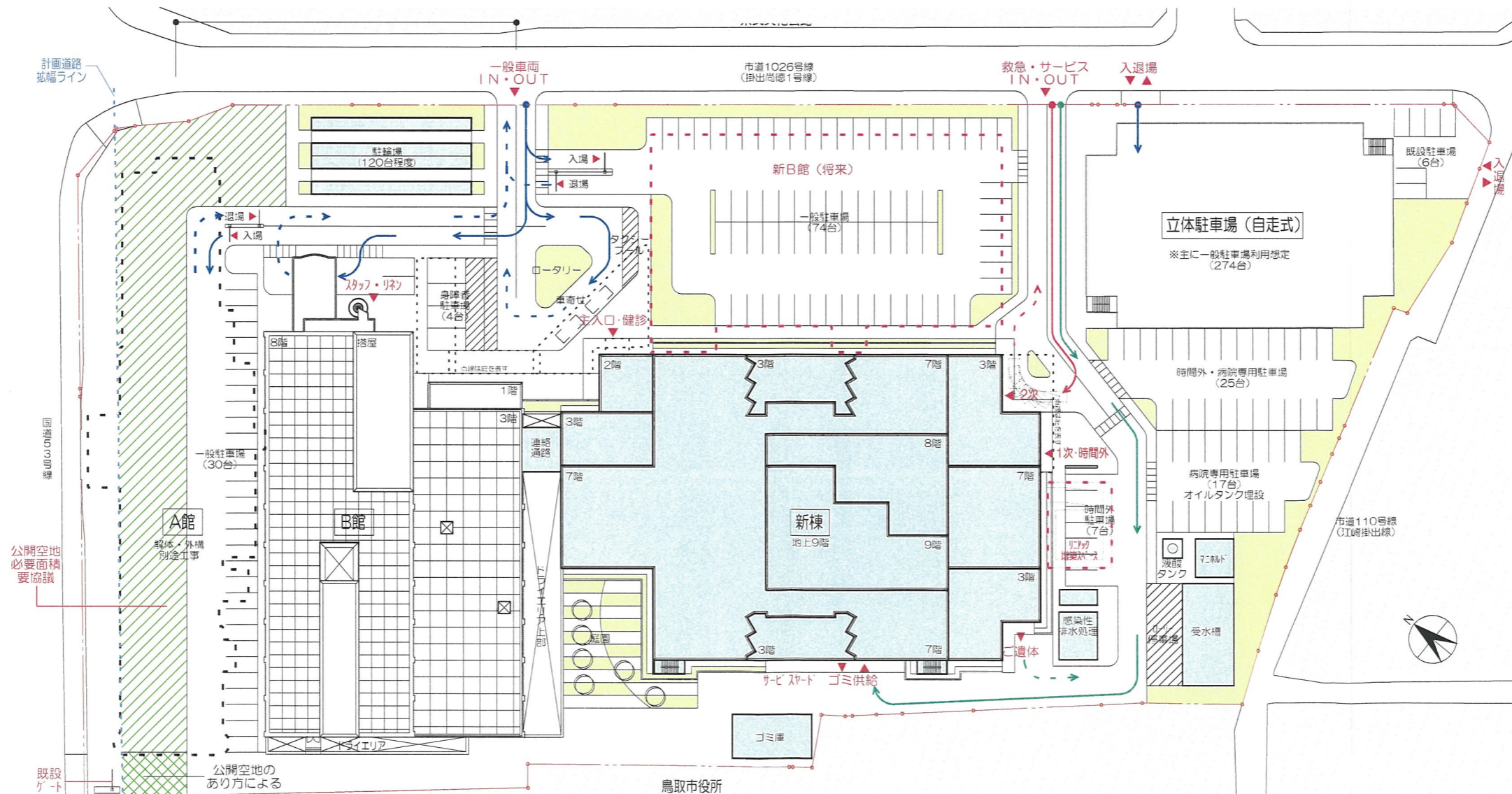
- ・一般駐車場は主玄関に近い位置に2箇所配置
- ・北側一般駐車場は既存を一部活用し、A館解体時には跡地に拡張予定（公開空地協議による）
- ・身障者用駐車場は主玄関に近い位置にまとめて配置
- ・時間外・病院専用駐車場は時間外出入口に近い場所にまとめて配置
- ・既存の立体駐車場はそのまま活用
- ・駐輪場は患者用及びスタッフ用を必要台数分整備する
- ・ロータリーは積雪、路面凍結対策を検討する

■動線計画（車両・人・物）

- 車両
  - ・一般車両は北東側
  - ・救急、サービスは南東側
- 患者
  - ・主入口はB館との近接建物北東側
  - ・1次、時間外は建物南側
- 物
  - ・サービスヤードは建物西側
- ご遺体
  - ・搬送口はサービスヤードと明確に分け建物西側、かつ周囲から見えないうち配慮

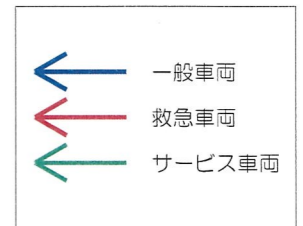
■建替計画

本計画は現病院を使いながらの建替となり、工事工程（Phase）は6工程に分かれる（計69ヶ月）。各々の時期における動線計画を設定するとともに、騒音・粉塵等の対策に極力努める。



駐車台数

平置駐車場	163台
(現況153台→10台増)	
立体駐車場	274台
合計駐車台数	437台
※公開空地以外のA館跡地は駐車場として整備	



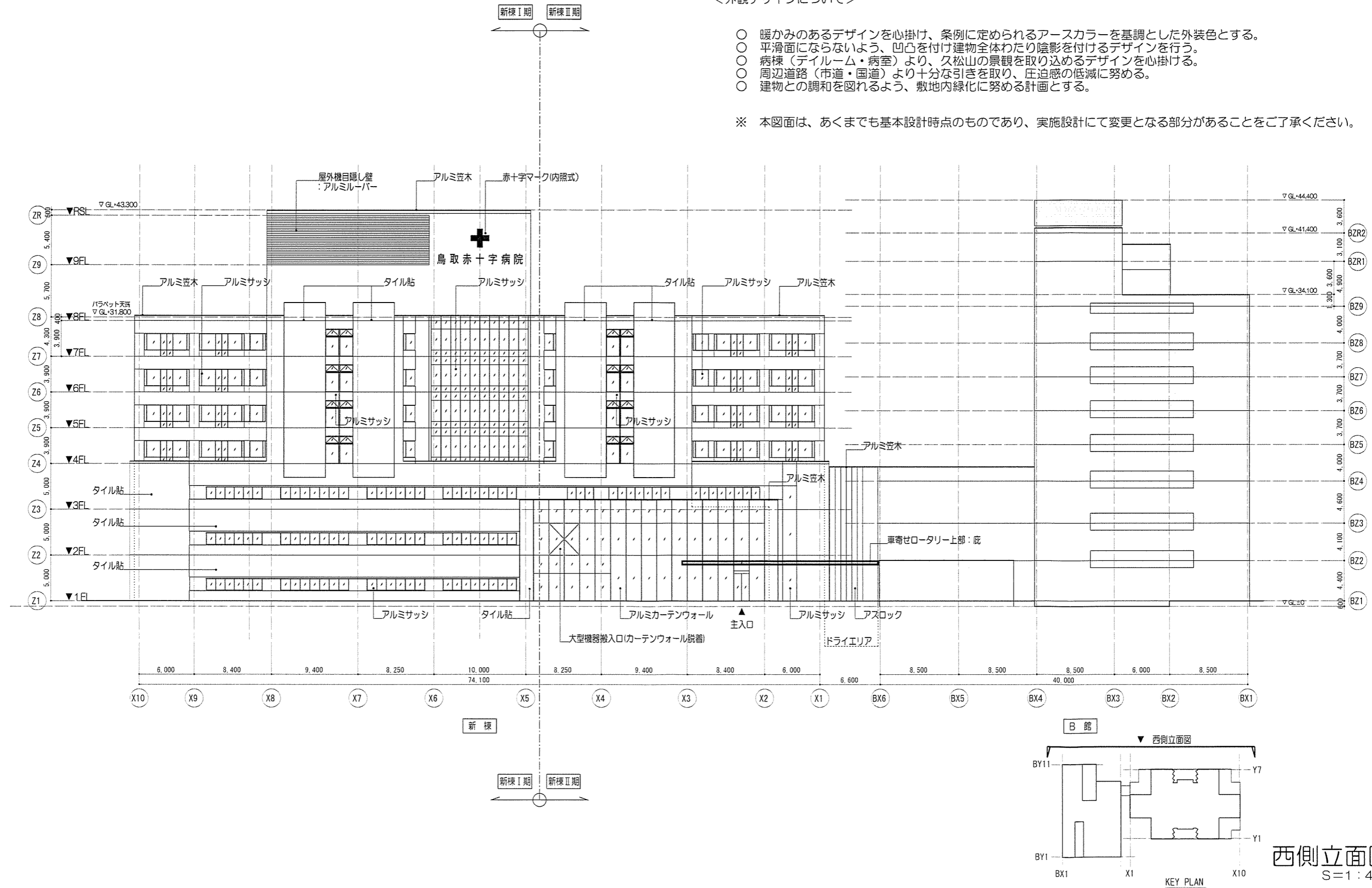
配置図 S=1:800

資料3

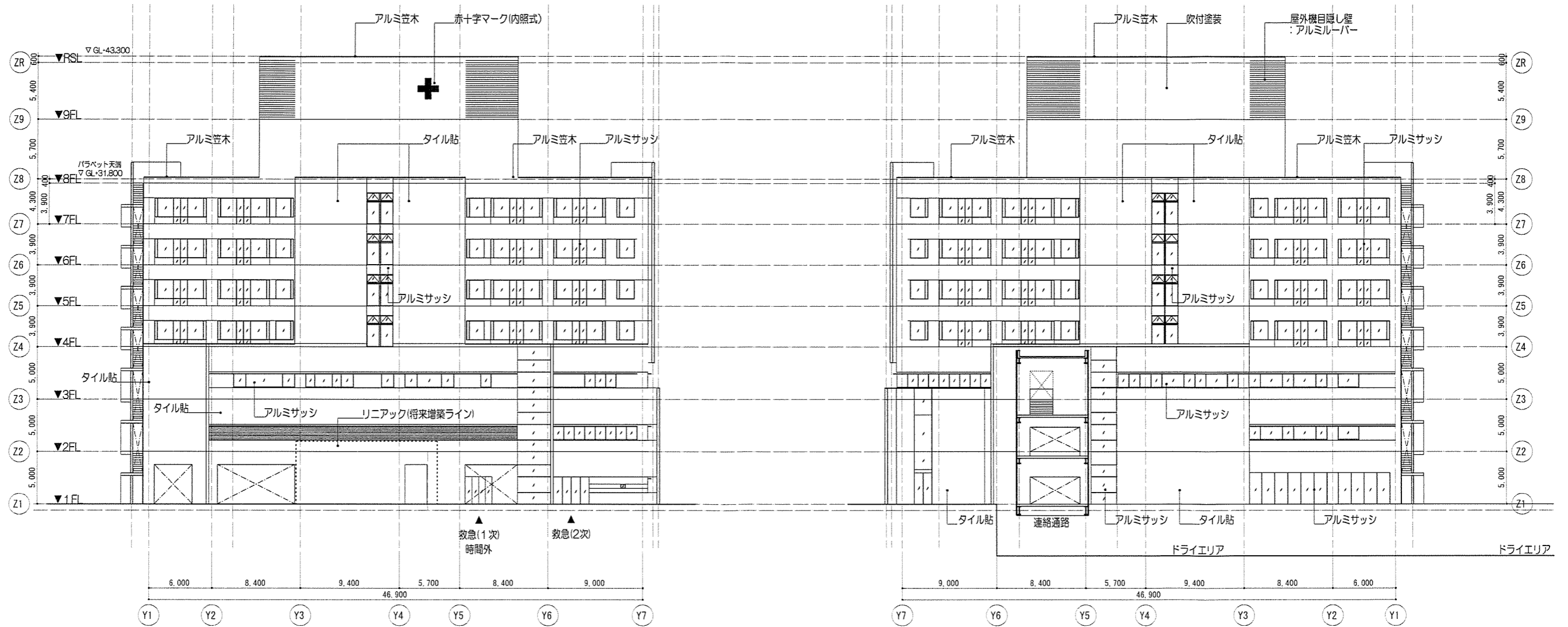
<外観デザインについて>

- 暖かみのあるデザインを心掛け、条例に定められるアースカラーを基調とした外装色とする。
- 平滑面にならないよう、凹凸を付け建物全体わたり陰影を付けるデザインを行う。
- 病棟（デイルーム・病室）より、久松山の景観を取り込めるデザインを心掛ける。
- 周辺道路（市道・国道）より十分な引きを取り、圧迫感の低減に努める。
- 建物との調和を図れるよう、敷地内緑化に努める計画とする。

※ 本図面は、あくまでも基本設計時点のものであり、実施設計にて変更となる部分があることをご了承ください。

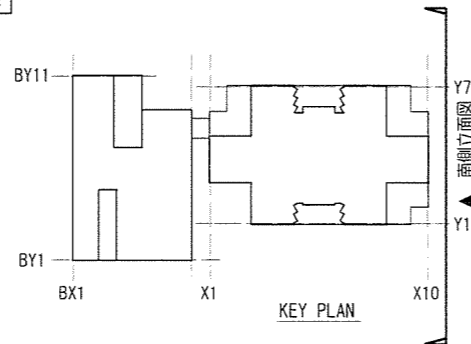




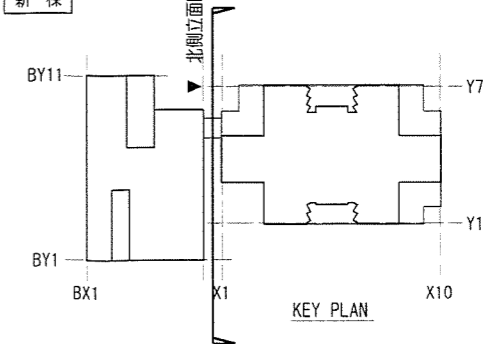


新棟

新棟



南側立面図  
S=1:400



北側立面図  
S=1:400